

## 国土審議会第26回計画部会 議事概要

1. 日時 平成19年11月27日(火) 14:00~15:30

2. 場所 東京プリンスホテル

3. 出席委員(敬称略)

森地部会長、家田、石、大西、奥野、垣内、金井、来生、鬼頭、小林、  
生源寺、関根、高島、武内、中澤、中村、西村、林、村木、村田

4. 議事(概要)

(1) 開会

(2) 議題① 最終報告に関する調査審議 ⑥

(国土形成計画官する報告(案)及び国土利用計画に関する報告(案)  
について)

議題② その他

(3) 閉会

5. 主な発言内容

(1) 議題① 最終報告に関する調査審議 ⑥

【国土形成計画について】

特になし。

【国土利用計画について】

- ・ 計画内容について異論はない。ただ、このような国土利用計画が、耕作放棄地、産廃施設、郊外の大型施設の乱開発など土地利用をめぐる諸問題に対して有効なものとなるよう、国として能動的な働きかけをしていくべきである。
- ・ 地方圏の人口が減少していくことと広域ブロックの活性化を図ることとの整合性などに留意すべき。
- ・ 今後は、数値目標の管理と関連し土地利用の質が重要である。例えば住宅地について、居住地周辺のアメニティや防災など質の向上が必要である。

- ・ 国土利用を進めていくことと地球温暖化対策との整合をとることは重要な課題である。
- ・ 先進国で農地が減っている国はほとんどない。国家の安全保障の観点から農地の減少は気になる。
- ・ 自然的土地利用から都市的土地利用への転換が減少しているとのことだが、今後は、これまでとは逆の転換も重要になってくると思われ、このような逆転換を促進するようなメカニズムを促進するようなことが必要である。
- ・ 世帯数などを見通すに当たっては、各種社会制度の動向についても留意しておくことが重要である。
- ・ 国土利用計画の有効性については、土地利用調整の条例などと連携させて、有効に活用している事例もあることから、このような実態を広めていく必要がある。また、国土利用の質的状況については、地方自治体でも適用可能な実用的な手法などについて研究していく必要がある。
- ・ 各委員とも、そもそもの計画の重要性についての指摘であったが、計画本文についてはこれで良いということだと思う。このことは国土審議会でもお伝えし、議事録にも載せておきたい。

(以上)